



一般社団法人 北海道視覚
障害者福祉連合会
発行人 森 正裕
事務所
札幌市中央区北2条西7丁目
道民活動センタービル 4階
電話 (011) 271-0380
FAX (011) 281-1283
振替 02710-5-709
毎月 20日発行
定価 1部 千 100円

札幌ポップスコンサート鑑賞

事務局 工藤 敏恵

去る7月22日(水)午後2時より、札幌コンサートホールキタラにおいて、「日本製紙プレゼンツ札幌ポップスコンサート」が開催され、このコンサートの特別協賛企業である日本製紙株式会社よりご招待をいただき、会員とガイドヘルパーの総勢30名で素晴らしい音楽につつまれた時間を過ごすことができました。

今年で13回目となるコンサートの第1部は、指揮者の藤野浩一氏の楽しいお話を交えながら、映画音楽や80年代の懐かしい日本のヒット曲の数々が演奏され、第2部には、今年デビュー50周年を迎えた布施明氏が登場し、50年経った今も変わらぬ美声と軽妙なトークにホール全体が魅了されていました。

コンサート中は、いつも視覚障害者の外出を支えてくださるガイドヘルパーの方々が、曲の合間にステージでの状況をわかりやすく伝えてくださり、一緒に楽しんでいく様子はこちらにも伝わり、職員としてとても嬉しく思いました。

参加した会員からは、「とにかく楽しくて、あつという間の2時間でした。数日経った今でも、あの興奮がよみがえってきます。本当にありがとうございました。」「キタラのスタッフの皆様の優しいサポートで、

安心してコンサートを楽しむことができました」「日ごろ家にこもりがちでしたが、札幌交響楽団の懐かしい曲の演奏や、布施明さんの透き通る歌声、ユーモアあふれるトークにすっかり魅せられてしまい、改めて外出の楽しさを実感しました」など、たくさん感想が寄せられています。

また、入場の際には札幌コンサートホールキタラのスタッフの皆様が、階段の昇り降りを最小限にしたルートを考えて座席まで案内してくださり、あたたかいお心遣いに深く感謝しております。

そして、日本製紙株式会社の関係者の皆様には、このような素晴らしいコンサートにご招待いただきまして、本当にありがとうございます。

事務局より

今回のコンサートは、座席数に限りがあり、また開催日まで日数がなかったことから会報や新聞でのお知らせができず、近隣の地域団体へ直接お声掛けいたしました。会場内の移動などの安全性を考え、ガイドヘルパーとペアでの席を確保したため、多くの皆様にお知らせできなかったことをお詫びいたします。



盲人の国際的シンボルマーク
このマークは盲人の国際的組織である World Blind Union (世界盲人連合) の総会で採択されたものです。

夢の新設 函館アリーナ完成!!

函館視覚障害者福祉協議会 島 信一朗

この程、ユニバーサルデザインの素晴らしいアリーナが、私たちの声を十分に反映して完成いたしました。夢にまで見た新時代の多目的体育施設は、総収容人数5千人、メインアリーナとサブアリーナの大小2つの卵形をした実に可愛いデザインです。

メインアリーナの入口では、「ピンポン、函館アリーナ南側入口はこちらです。点字ブロックの後、誘導マットをお進みください。受付は右手側にあります」という盲導鈴によるアナウンスが流れます。そして、この誘導マットは、私たちが強く推奨する「歩導くん」という視覚障害者を各部屋まで優しく導いてくれるユニバーサルデザインのマットです。



アリーナ内に敷設された誘導マット「歩導くん」

しかも、入口から受付までのみならず、メインアリーナとサブアリーナの全てのフロアに敷かれています。

また、サブアリーナの外周に作られたランニングコースには、視覚障害者やお年寄りなどにも利用しやすいように、外周の壁の全面に手すりをつけていただくことができました。

その他にも、全ての人に優しいデザインが随所に施されており、シャワールームやロッカールームは、車椅子利用者や子どもたちにも充分に配慮されていたり、磁気ループ(補聴援助システム)という難聴者や聞こえにくい人に優しいシステムを導入していたりと、まさに夢のユニバーサルデザインがギュッと詰まった卵の親子なのです。

当会では、このアリーナ開設を応援する企画として、去る8月4日に、スポーツジャーナリストとして活躍されている元オリンピック代表の増田美さんをお招きし、トークセミナーを開催いたしました。当日は、増田さんと一緒にアリーナを視察し、これらのユニバーサルデザインに対し大絶賛をいただきました。

「2020年の東京オリンピック・パラリンピックを5年後に控えた今、このような誰にでも優しいアリーナが出来上がったことは、とても大きな意義がある」とおっしゃっていたとき、ぜひ各国のアスリートにも沢山訪れてほしいと、「全国・世界にPRさせていただけます」と講演会の中でも力強く、そして熱く私たちに語りかけてくださいました。

当会では、アリーナにサウンドテールテニス(盲人卓球)の台を常設いたします。今後は積極的に全道・全国の仲間たちを招いての練習試合や地域の子どもたちと交流する機会を設けていきたいと考えております。

ぜひ皆様、函館を訪れていただき、卵形のアリーナに足をお運びください。

千歳市民防災講座に参加して

千歳視覚障害者福祉協議会 菊地 悦子

去る7月4日(日)午後1時から、千歳市防災学習交流センターで開催された「千歳市民防災講座(応用編)」が開催されました。

この講座は千歳市が主催し、40代から80代までの56名の参加があり、私は視覚障がい者当事者の立場から座学と実技の講座のお手伝いをしました。座学では、災害が発生した場合を想定して、視覚障がい者へのガイドの方法やどのような注意が必要かについて、視覚障がい者の見え方などをお話ししながら進めました。

その後の実技講習では、広い通路と狭い通路での歩行、溝の回避と不安定な場所の通行、スロープでの歩行、階段の昇り降りなど、6つのパターンをガイド側と当事者側の両方を体験しながら学習しました。

受講者の方々からは「視覚障がい者の不安や不自由さがよく理解できました」「避難誘導時の配慮などが理解できました」などの声をいただき、また、実技に熱心に取り組む姿を間近に感じ、とても有り難く、心強く思いました。

私たち視覚障がい者が外出先で東日本大震災のような災害に遭遇したら、周りの状況を全く把握できず、体を動かすことすらできなくなると思っています。

講座の中で受講者の方々へもお願いしたことですが、災害時だけでなく日常の中でも、視覚障がい者に出会ったら声を掛けていただけるととても有り難いです。

今回このような講座を主催してくださった関係者の皆様と受講者の皆様に心から感謝いたします。

この新聞は「ミニチュアリアル・パートナー」の赤い羽根共同募金の配分金により刊行されました。